

平成 2 1 年 6 月

[配布先：全組合員]

市場情報

「日 時」 平成 2 1 年 6 月 1 2 日（金） 正午 ～

「場 所」 東京「鉄鋼会館」

「出 席」 酒 匂 委員長他 1 6 名（最終頁参照）

「経 過」

1. 酒匂委員長挨拶

景気指標が13カ月ぶりに好転、政府は今年3月で好不況は終わったと報じている。本日は地区の明るい材料をお聞きしたいと思っているが、景気指標の動きとシャア業界の動きがあまりにも乖離しているので、極めて残念であるし、挨拶に窮してしまうといったところが今の実感である。先が全く見えず、苦しいが、少しでも明るい材料があれば救いであります。

2. 各地区の需要動向と市況報告

北海道

公共工事の早期発注に期待

福寿草が雪の下から美しい花を咲かせ、クロッカス・梅・桜・チューリップ・ツツジ・藤・牡丹・スズラン・ライラックが一斉に春を待っていたように、次々と目を楽しませてくれた花の季節から、よさこいソーラン祭り・北海道神宮祭典と新緑のもと、お祭りのシーズンを迎えました。

「季節は最高・景気も最高・・・」と、言いたいところですが、北海道財務局は道内景気について6年半ぶりに「悪化している」とする経済情勢報告を発表した。特に、企業収益・雇用情勢（有効求人倍率0.32倍）・個人消費は厳しく、その厳しさはこれから更に深刻化し、まだまだ底が見えないといった見解がしめされ、道内を代表する有力老舗企業など相次いで経営に行き詰まるなど、顕著な冷え込みが続いている。

【鉄 骨】 建築統計による平成 2 0 年度北海道地区鉄骨推定は、1 7 万 7 9 0 0 Ton（前

年度20万3900Ton)で前年度比12.8%減となった。平成21年1～3月では、鉄骨推計2万3600Ton(同3万4300Ton)前年比31.1%減となり、また、鉄骨需要の先行きを示す平成21年1～5月の積算数量は4万6802Ton(同10万5048Ton)で、前年比55.4%減となっている。

道内の鉄骨需要は、Hグレードを中心とした大手ファブは、昨年から発注された道央圏の大型プロジェクトに加え、首都圏の大型物件の受注で前半は高い山積みで高稼働率を維持し、一部工程調整を行っている。

一方、M・R及び地方のファブは本来最盛期となるこれからの時期、山積みが進まず工事確保に奔走しているが、中小物件は非常に少なく、近年に例を見ない工場の低稼働を予想している。また、食料増産体制に向けて関連施設の建設整備、公共工事・耐震補強案件の早期発注が待たれるが、夏から秋口以降の目ぼしい物件はなく、GC間の受注競争激化による低価格落札で、鉄骨加工単価の指値は厳しく苦戦を強いられ、先行き明るい見通しは少なく悲観的ムードがただよっている。

【橋 梁】 平成20年度の橋梁発注は1万9630トンで、(前年度2万4716Ton)対前年度比20.6%減と非常に厳しい状況であった。

平成21年度ゼロ国・補正予算は順次発注され、景気浮揚に向けて公共投資は大幅に前年度を上回る見込みであり、今年度はトータル2万5500トン・前年度比30%増を見込み、また、橋梁とともに、今後発注増が期待される、橋梁の延命・耐震対策、補修・補強材としての、落橋防止装置及び鋼製床版工事の早期発注が期待されている。

【切板の状況】 昨年からの継続大型プロジェクトに加え、首都圏の大型物件の受注加工により、現状は比較的高水準で安定操業が続いているが、大型プロジェクトの加工も上期ではほぼ完工見込みであり、7月以降一部Hグレードを中心に大手ファブの稼働にも陰りが予想される。新規物件は例年に比べ極端に少なく、本来最盛期となる夏場からの工場稼働率の低下が懸念され、景気対策としての食料増産関連施設、耐震補強案件や橋梁などの公共投資の早期発注がのぞまれる。価格については、電炉厚板の大幅値下げ、電炉厚板との価格差の大きい高炉価格についても、原料価格値下がりから、大幅な価格改定が有るのではとの期待感に加え、鉄骨価格の値下がりを受け、中小物件についての値引き指値が厳しくなり苦慮している。

在庫については、厚・中板ともに納期が急速に短納期化し、契約残が期末に向け一気に入荷、大幅に在庫が増加したため在庫調整を最優先に進めている。一方、販売先については昨年から、鉄骨ファブ・建設機械・各種プラント設備・農業機械製造メーカーなど相次い

で経営破綻、シヤリング業界も大きな影響をうけた。道内は土木・建築が中心であり、長年にわたる民間投資の低迷、公共投資の抑制で、ゼネコンをはじめ建設業界は疲弊、与信問題もさらに深刻さを増しており、在庫問題とともに与信管理についても今後も一層多難な状況が続きそうである。

(玉造・西村孝治)

東 京

秋口以降の回復に期待

1. H20年度及び足元の動き

<年度加工量推移>

	橋梁	鉄骨	その他	計
04年度	63.5	57.1	20.2	140.8
05年度	54.0	64.4	20.1	138.5
06年度	56.0	40.7	22.8	119.5
07年度	61.6	53.2	25.5	140.3
08年度	67.2	49.3	23.2	139.7
対前年	5.6	▲3.9	▲2.3	▲0.6

<08年四半期別加工量推移>

	橋梁	鉄骨	その他	計
1Q	15.2	11.8	7.0	34.0
2Q	18.6	11.0	5.8	35.4
3Q	17.0	13.3	5.9	36.1
4Q	16.4	13.2	4.5	34.2
対前Q	▲0.6	0.1▲	1.4▲	1.9▲

〔橋 梁〕 一昨年の談合事件影響及びメーカーロールのタイト化によって、物件が大量に08年度にずれ込み、我々の加工量としては、近年では過去最高の水準となった。しかし、年間入札量は30万トン強と低レベルであった。

〔鉄 骨〕 建築基準法見直しや金融不況の影響を受け、中小案件は急減したものの、超高層案件は大きな変化なし。但し、急激な鋼材価格急騰により、F A B・G C間で価格交渉がこじれ、物件発注がずれたことから、数量的には対前年減少。

〔全 体〕 前半の鉄骨の減、4Qからのその他分野(産機・自動車)の急減を橋梁の増でカバーし、ほぼ前年並みの数量となり、概ね全社フル稼働することが出来た。

2. 今後の動向

〔橋 梁〕 全国的に昨年後半はかなりの入札があったものの、中部以西の物件が多かったことや、関東ファブの総合評価制度に対する遅れから、落札が関西ファブに集中した。結果、関西ファブの手持ち工事がH21 年度一杯あるのに対し、関東ファブは長いところでも上期～年末、短いところでは、既に夏場の仕事が足りない状況にある。しかし、今後6～9月にかなりの入札がある見込みであり、その中に関東案件が多いことや、政府指導から年内加工となること等から、関東ファブが受注する可能性が高いと思われる。

従って、我々の加工量としては、夏場は大きく落ち込むものの、秋口～年度末にかけて、回復する見込み。

〔鉄 骨〕 設備投資や中小建築案件の中止により、中小ファブの稼働は惨憺たる状況。しかし、超高層ビル案件には、今のところ大きな計画変更は見られず、鉄骨需要としては高水準。しかし、GCによる、海外ファブ(タイ/MCS, 中国/精工 PD)起用の動きや、鉄骨価格の揺さぶりにより、発注遅れや発注数量が減少しており、大手ファブの夏場の山積みが極めて苦しい状況にある。

一方で、秋口以降は、海外ファブが手を出せない高級鋼を使用する案件が続いており (JP ターボ丸の内再開発・パレスホテル等)、各大手ファブは、秋口～来年夏場頃まではフル 操業を予想している。

従って、我々の稼働も、橋梁同様、夏場が低く、秋口以降回復する見込み。

〔全 体〕 橋梁、鉄骨とも夏場の仕事が薄く、産機・自動車関係に回復の兆しが見られないことから、6～9月の稼働が厳しい状況にある。秋口以降の回復に期待。

(富士鉄鋼センター・井沢純司)

東 京

在庫調整に努力

〔現 状〕 急降下局面の加速は緩やかになったものの、谷底は非常に深い。建築は悪い中でもまだマシであるように言われているが、元々低位操業の連続で、この数年決して楽な決算はしておらず、足元の数量減はかなりの打撃となっている。

この2～3ヶ月は、6割り操業と更なる低位となっており、新規物件の発注件数・数量ともに減少している。業界筋が試算した4月の推定鉄骨需要は、前年同期比41%減の約30万6千トンで、過去最低の水準に落ち込む模様だ。6ヶ月連続で対前年比マイナスとなり、30万トン割れが目前に迫っている。案建を先送りする事で、資材価格の値下がり期待しているようだが、その実態は把握できていない。(輸入鉄骨含む)

高炉メーカーの今期原料価格交渉が一応決着した為、大口ユーザーであるトヨタなど自動車メーカーに対しては現状トン15,000円の値下げを行い了解を得た事で、他品種もこれに倣った価格で落ち着くであろう。

〔在庫〕 申し込み量も少なく在庫減に努めてはいるが、申し込み分の明細出遅れ等、切断減・出荷減が響き思ふような減少となっていない。

新価格材への回転が必要であるし、当然スピードが要求される中で歯がゆい状況である。

(丸東興業・秦弘志)

東 京

回復実感は年度下期以降

建産機全般として、1～3月底で4～6月は多少なりとも上向くのではとの淡い期待は大きく外れた模様であり、回復を実感出来るのはどうも下期以降にずれ込みそうである。各需要家から発信される生産計画は下方修正が多く、先行き不透明感が続いている状況下では、背丈以上に積まれた素材在庫の消化・加工体制の再構築をどうするか、具体的な対策の立案・実行に関係シヤァは苦慮している。

建設機械の4月出荷は前年比△65.1%、特に主力機種のお圧シヨベルは△75.3%と落込みが激しく鋼材使用量からみて建機シヤァへの影響は甚大である。建設用クレーンは他機種より遅れたものの、現状はやはり同様の生産調整となっておりシヤァの足元の加工量は概ね△60%～△75%とみられる。ダンプは欧米向けが全くの不振で、一部機種を除き壊滅状態である。下期の生産計画もあてにならず半ばあきらめの状態。

建機全般の09年度の受注は前年比△22%、ピークの07年度比約△30%となる予測であり、現況からすると非常に明るい数字が発表されているが、我々シヤァの生産に反映されるのは各需要家・協力会社及び代理店等の余剰在庫が解消されてからであり、09年度の加工数量の回復は期待できないと思われる。

金属加工機・鍛圧機械分野は建機より落込みが深くかつ長いとみられる。工作機械の1～4月の受注額が△82%と低迷している動きに連動しており、大型プレスにおいては複数の需要家で数ヶ月～半年間受注が無かったとの情報もある。金属加工機も大量の製品在庫を抱えており、年内の切板納入は少量に終わりそうである。

過剰設備の現状下、自動車関連も含めた全体の需給ギャップが解消されるまで、暫くは回復に期待は持て無い。

重電分野は総じて足元は横ばいを維持している模様で、他業種と比較すればこの時期非常に堅調と言える。しかしながら、変圧器等の受注競争で円高の影響を受け欧州メーカーに負け

るケースが増えている事や、海外製鉄プラント案件の減少等、先行きは非常に厳しい状況が予想される。また原発においても年内は加工量を維持できるが、これが終了すると国内原発案件の加工は‘13年まで暫く空白の予定となっており悲観材料の一つである。

産機店売り分野は紐付き程の急激な落込みは無いものの、長期低迷が続き50%～60%稼働の状態である。また切板単価もまとまった数量になると母材単価に近いレベルを要求されており、受注すべきか否か頭を抱えており苦難の連続である。

(ニューエイジ・池田啓志)

新潟

厳しい状況は続く

本州が梅雨入りし、もうすぐ夏を迎えようとする季節となりましたが、厚板を取り巻く環境は益々冷え込んできております。

一部の業種や品種では、1～3月で底を打ち回復基調に転じたものもあるようですが、当地区の厚板状況はと言うと、月を追うごとに悪化しております。製造業は減産により低位で推移しているうえ、建築関連の落込みが大きくなってきており、いままで関東などの継続案件で、なんとか繋いできたHグレードファブも、新規物件は少なく、鉄骨単価の下落により受注に大苦戦している状況が続いています。Mグレード以下のファブに関しては、地場物件やHグレードファブの下請けもなく、あるのは学校の耐震工事といったところです。唯一よいことと言えば、車両関連が比較的顕著に推移しており、地場産業の救いとなっております。

そうした中、厚板シャヤー業者はというと、受注量の減少で稼働率は低下し、在庫は積みあがる。切板価格もユーザーからの厳しい指値があり、メーカー値下げとのギャップ、他県からの安値材の流入、電炉と高炉の価格差の対応など悪循環を繰り返しております。

すぐには大幅な改善が見込めない、非常に難しい局面ではありますが、足元をしっかりと固め、今出来ることを一つひとつ確実にいき、将来に繋げていくことが大切に感じております。

(藤田金属・多村嘉人)

東 海

産機シヤーは3割稼働

東海地区の産機シヤーのヒモ付及び店売シヤー業者は、5月に入ってもほとんどが3割稼働の為、雇用調整金を申請しているところが多く、また、全体的に厚板熔断業者は薄板やその他の鋼材を扱う業者に比べ在庫調整が遅れており、稼働3割から在庫を算出すると各社とも、最低で半年以上の在庫を抱え、在庫の多い所では1年以上抱えているところもあります。

その為ほとんどの厚板業者が材料講入を控えています。抱えている在庫価格は高止りしており、ジリジリと下り続ける切板価格に対応出来ず、逆ザヤの販売になってきています。見積もりの物件は出てはきますが、決らず、当て馬として使っているケースも多く、その上流通業者などが、その場の利益を上げる為、厚板シヤー業者に対して無理な価格を提示するケースも出ています。大小問わず付き合っているほとんどのユーザーは仕事が少なく、ユーザー自体も3勤4休などの状態で、予信の問題が大幅にクローズアップしてきました。鉄鋼メーカーも鉄鉱石の価格が決まり、大手ユーザーとの価格が決定し始めていますが、東海地区の熔断業者の現在の切断価格と、高炉メーカーが大手ユーザーに対して引き下げた価格を比べてみると、利益を出していく可能性が低いので、ユーザーやメーカーに対しきちんとした価格調整をしていかないと、在庫調整が終わった後、新たに新しい材料を購入しようとしても逆ザヤ現象が残ってしまうと思われれます。

(鈴将鋼材・鈴木康司)

東 海

建材シヤーは2極化

東海地区の建材シヤーの状況につきましては、メーカー系列のシヤーの稼働については、橋梁向け切板の落ち込みがないために工場稼働のベースとなり、建築向の需要が多少減っても大きな落ち込みとなっていない状況です。

橋梁物件の需要につきましては横這いの状況なので、今の建築市況からすると、かなり良い状況での推移といえます。

それに比べまして一般建材シヤーは、かなり厳しい稼働状況となっています。

東海地区の建材シヤーは取扱い種目が建材だけではなく、他部門も取り扱っているのですが、他部門の需要の落ち込みが厳しいうえに、まだましな建築向切板も低迷しているために、

工場の稼働状況は4割から5割程度[※]というのが平均的な状況ですが、中には3割というかなり厳しい所もある状況です。

現状の少ない仕事量から、素材在庫量は各社調整されているのにも関わらず7～8ヶ月とといった報告が中心となっています。

在庫調整により歯抜けとなったサイズの素材は、市中で手配したほうが、ロール手配よりも安価にて調達できる状況との事です。

中部地区は他地区に比べて建築物の数量の落ち込みが著しく、目立った大型案件もなく、今後の建築案件の数量もあまり期待できない状況です。

また決定している建築物も、着工を遅らせれば遅らせるほど鉄骨工事単価や鋼材価格が下がっていくとの施主やゼネコンの予測により、なかなか工事が動き始めないといった状況なので、足元の閑散とした状況に拍車がかかっている。

この様な状況なので働いている建築物に、ゼネコン、ファブが群がり工事単価の叩き合いによる受注となるため、切板製品単価に対する指値はユーザーが実際に購入できる単価ではなく、シヤ一の在庫素材単価を無視したユーザーの欲しい切板製品単価の指値となっており、かなり厳しい状況である。

(中部鋼板・加藤一修)

大 阪

遅れる在庫調整

1. 全般

- (1) 中板は自動車関連が最悪期を脱し、これにつられてコイルセンターも動き出したことから在庫調整が進み、連休明けから反転し、価格も上げ始めている。
- (2) しかしながら、厚板については5月になっても前月比マイナスが続いており、底が見えない。
- (3) また年度末にメーカーからの入荷が多かったことから、在庫が膨れ上がり、需要が更に減少していることから、在庫調整は更に遅れ、年内もしくは年度末までかかるのではとの声が出てきている。
- (4) 価格についてはトヨタが-15,000円/tで決着と報道されてから、他の需要家も同水準になると思われるが、市況を立て直すほどのインパクトはないため、まだ立て直しには時間がかかる模様。

需要を喚起するための思い切った価格政策が要望されている。

(5) 需要不振のため、安値での販売が散見されている。各社安値戦争には参加したくないものの、需要家との繋がり確保しておかなければならず、ある程度のお付き合いはしている模様。

<5月の近畿地区 倒産状況>

件数…341件	(前年同月比+18.0%)
08年度は3,993件	(前年同月比+3.9%)
金額…641億円	(前年同月比-42.2%)
08年度は12,652億円	(前年同月比+46.5%)

2. 需要部門別

(1) 橋梁

① 堅調であった橋梁であるが、盆明けぐらいまではフル操業に近いものの、それ以降は不透明。

また、国の物件はともかく、県の物件の落札率が下がり、fabから厳しい価格が出ている。

② 今年度の発注量は30万tを割るのではとの観測もあり、量は落ち込んでいく模様。

(2) 鉄骨

① 名前が上がっている物件は多いものの、着工はいつになるかわからず、少なくともメーカーにロールが入っていないことから秋口までは全く無いといっても良い状況である。

② ファブの仕事量も昨年の受注減を消化することで繋ぐことが出来ていたが、今後はかなり、厳しくなり、受注競争が激しくなり、価格もますます厳しくなる模様。

<4月の建築着工面積>

S C … 296.1万㎡ (前年同月比 -41.8%)

S R C … 21.7万㎡ (前年同月比 -29.9%)

鉄骨需要量 … 約31万t (前年同月比 -21万t)

近畿/非住宅 … 56.7万㎡ (〃 -35.6%)、1、〇⁸億円 (〃 -198%)

(3) 建機

① 今年度の計画は、当初、昨年度より増産する計画であったが、国内向けがここに来て下方修正しており、まだ回復には時間がかかる模様。

② 各社、製品在庫も多いが、協力会社・下請けでは部材・部品並びに鋼材の在庫が多く書現在の生産量では本格稼働はいつになるかわからない。

(4) 造船

①好調な造船ではあるが、仕事は持っているもののピッチダウンしてきており、一時の勢いは無い。

(シーヤリング工場・佐々木泰司)

九 州

九州の良識

九州地区の厚板シヤアの業況は、昨年12月以降悪化の一途をたどっていたが、ここ数ヶ月は『大飢饉』的状況に陥っている。

これは、九州の厚板溶断需要が、昨年12月約24千トン/月であったものが本年4月には13千トン/月程度と約50%急減したことを起因に(全国平均が約15%減に比し大幅な落ち込み)、自社の稼働量確保の為、相場とかけ離れた価格で受注を目指す同業も現れ、またそれに対抗する同業も現れるといた『無政府状态的受注合戦』が起こったことによる。

今では、「なまじっか母材を買うより切板で注文した方が安い。」とまことしやか言われ、またそれが紐付きユーザーまで知るところとなり、紐付きの新規案件は言うに及ばず既案件まで悪影響を起すと言った状態に陥っている。

斯く状況を鑑みるに、当面は実需の回復を待まって嵐の過ぎるのを待つか、実質大幅赤字で消耗戦を続けていくか、どちらにしても悲惨な結末を招くのは必定であり、この異常な状況がいつまで続くはずがない。

よって早晩、『九州の全同業の良識』から斯く状況は、収束に向かうと思われる。

【建 築】 4月程度までは、それでも建材系指定シヤアは、継続案件があり仕事量は大巾というほどの落ち込みはなく繋いできたが、ここに来て案件も先細りになってきた。しかしすでに足下から仕事量の少なかったMグレードや地方の π 向けのシヤアは殆ど仕事がなく苦しい状況が続いている。

特にここ数ヶ月の一般ユーザー向けを含めた需要の急落とそれに引きずられた単価下落は、余力のないシヤアに大変な重石になっている。

直近1~4月の非住居用建築着エ面積は、1283千 m^2 で前年比 $\Delta 33.4\%$ 覇前々年比 $\Delta 53.5\%$ となっており、全国統計の同前年比 $\Delta 16.3\%$ 、同前々年比 $\Delta 26.3\%$ に比べると九州が他地区よりいかに落ち込みが大きいかがわかる。

そんな中、長崎キヤノンの再開が決定した'二が唯一明るいニュースとなっている。

確定案件：九州新幹線熊本車両基地(2千t)、那覇都心地区土地利用事業おもろ町(7千t)、フアーメントビル(5千t)、久留米大学2期工事(3千t)、ニリ物流センター(5千t)

延期、中止案件：日田キャノン(4千t、6ヶ月延期)、富士写真フィルムLCD用部品工場4期(9千t、着工凍結)、イオンモール福津(10千t、6ヶ月延期?)、イオンモール大牟田(7千t、鉄骨規模縮小、内装工事中断 H22年度以降)

〔橋梁〕九州の橋梁ファブの受注状況は、ばらつきはあるが、総じて新規受注案件が確定しておらず6月以降に出件される21年度案件の受注決定を待っている状況。そんな中SSKは橋梁事業から撤退。日鉄ブリッジはトピー鉄構と新会社構想を発表した。

〔自動車〕九州の自動車生産は、在庫調整も進み生産が上向いてきた。本年度1Q(4～6月)は前年度同期比では67%であるが、前期比では25%UPとなった。特にトヨタ九州は、ハリアーハイブリットなどの新車効果もあり前期比倍増となる。

直近の新年度計画では3社あわせて927千台で、下期に更なる回復をみこみ前年比96%程度と計画している。

〔造船〕九州地区の平成20年度の建造量(竣工ベース)は対前年比4%減の5,243千総トン、受注量(契約ベース)は48.7%ダウンの3,346千総トンとなった。

平成21年3月末における手持ち工事量は対前年比9.3%減の12,777千総トンとなり、まだ約3年分の受注残はあるものの海外船主のキャンセルもあり環境は厳しく、造船メーカーは、現在の受注残を冬の備えとしピッチダウンさせながら先の環境の好転を待っている状況と言える

(豊鋼材工業・嶋津邦夫)

3. 高木理事長の感想

足元の需給状況は3月時点以降、更に悪化しており、この間、在庫が急増し、この重荷から解放されることが最重要課題になっている。シャーとしては申込量を抑制することが最優先であり、メーカーも上期中に調整を完了すべく方法をとるとのことである。一方実需の動向については1～3月ボトム、4～6月回復というシナリオは完全に崩れたが、政府が2次補正でカンフル注射を打ったし底が早晩見えてくるだろう。それまで我慢だ。消耗戦に突入して自殺相場に巻き込まれないようにすることが大事である。「好況はよし、不況はなおよし」といった先人の残した心意気でこの厳しさを乗り越えましょう。

(参考) ≡ 出席者 ≡ (順不同敬称略)

酒 匂 委員長
ゲスト 高 木 理事長
〃 長 澤 (武 部 産 業)
〃 高 田 (東 海 鋼 材 工 業)
北海道 西 村 (玉 造 株)
東 京 秦 (丸 東 興 業)
東 京 池 田 (ニューエイジ)
東 京 井 沢(富士鉄鋼センター)
東 京 角 田 (三ノ橋鋼材)
新 潟 多 村 (藤 田 金 属)
東 海 鈴 木 (鈴 将 鋼 材)
東 海 加 藤 (中 部 鋼 板)
大 阪 佐々木 (シーヤリング工場)
九 州 嶋 津 (豊 鋼 材 工 業)
事務局 柘 野

市場委員会の次回開催予定

第142回市場委員会

9月11日(金) 正午～

於 大阪・ラマダホテル